

出部ソフト快進撃



鯉の川杯と市大会制す

出部ソフトボールは今夏、第24回鯉の川杯ソフトボール大会（7月13日）と第53回西江市少年ソフトボール大会（7月31日、8月1日）の2大会を制しました。

鯉の川杯では予選2戦全勝。準決勝は8対3で勝利しました。決勝戦は、五回を終わって2対2の同点になり、タイブレークに突入する大接戦。最終的に、七回裏に劇的なサヨナラ勝ちで優勝しました。

今年の最後を飾る市少年ソフトの初戦は19対1で幸先の良いスタートでした。いつも接戦になる良きライバルチームと対戦となった2戦目は、7対2でまたまた勝利。選手たちは試合が進むにつれて、自分たちの流れを感じながら実力通りの結果が出せました。

大会2日目の準決勝ではエースの頑張りや打線の繋がりやで5対0と完封勝利。西江原との決勝戦は、序盤から2対0と優位にゲーム運び、最後の最後で打線が大爆発して9対0で完全優勝を勝ち取りました。

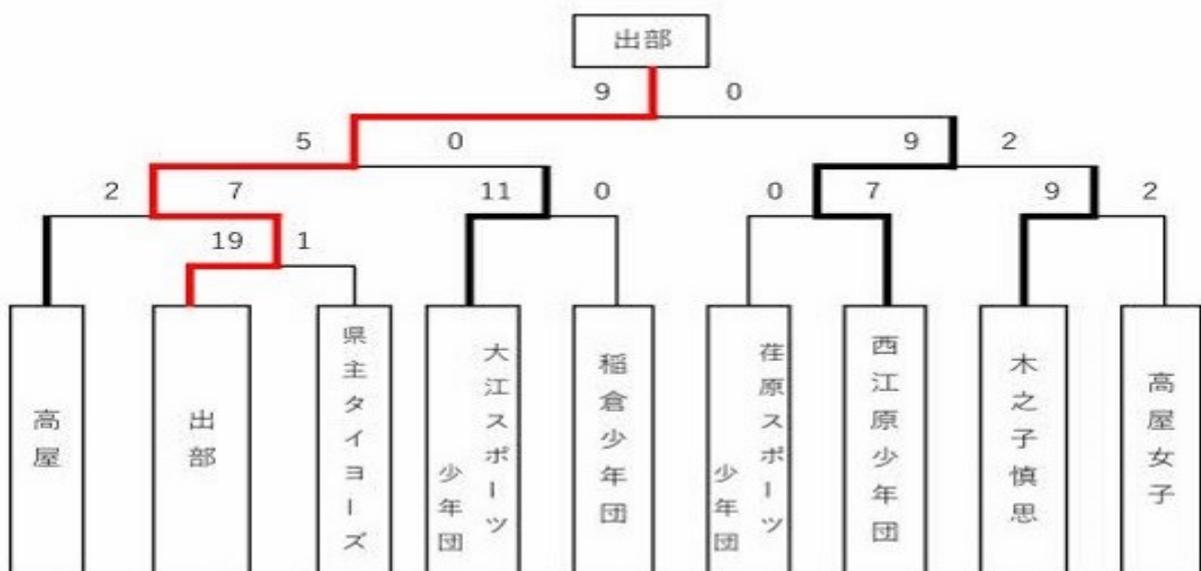
ダブル優勝は部員23名のチームワークと保護者・関係者のご協力のお陰と感謝しています。
（2・3面に写真特集）

メニュー

安心の黄色いハンカチ	4・5面
野外ライブ、希望の旋律	6面
フォトコンテスト入賞作品	10~12面
公民館駐車場を増設	17面
飛び出せ いずえっ子	19面



市少年ソフト大会





鯉の川杯ソフト

いよいよ出部
熱闘・歓喜

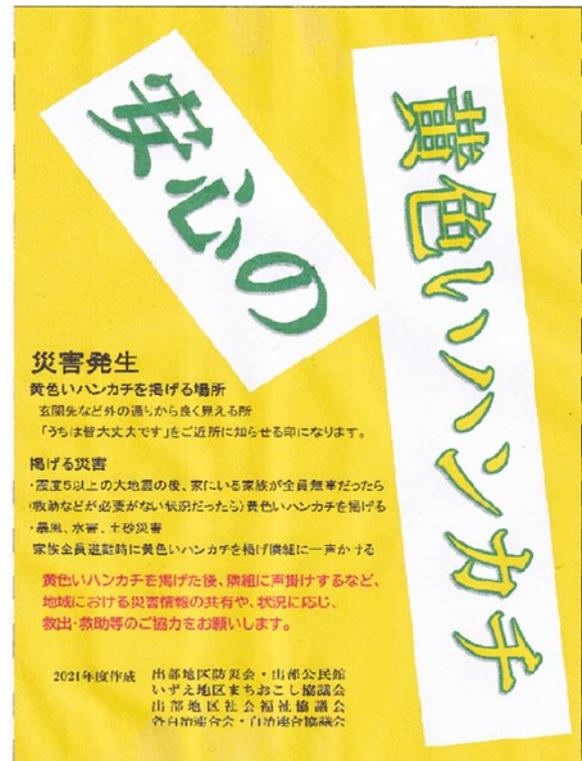


防災「黄色いハンカチ」配布

出部地区防災会、出部公民館、いずえ地区まちおこし協議会
出部地区社会福祉協議会、各自治連合会・自治連合協議会

昨年発足した出部地区防災会と、出部公民館、出部地区社会福祉協議会、いずえ地区まちおこし協議会、各自治連合会が協力して、大災害時に各家庭の安否確認をスムーズに行う道具「黄色いハンカチ」を出部地区に配布することになりました。

今後連合会、自治会でハンカチの掲げ方等の練習、確認を実施されます。そして皆さんと、住んで安心な出部を創って行ければ幸いです。



黄色いハンカチとは

震度5以上の大地震の後、家にいる家族が全員無事だったら（救助などの必要がない状況だったら）、黄色いハンカチ（大きく目立つ黄色い布）を玄関先に掲げてください。災害時、自治会、隣組での安否確認のときこの黄色いハンカチが掲げられていればこの家は大丈夫だと一目で分かります。ハンカチを掲げていない家庭には、ご近所、地域の、消防、警察の救助が早く行われる可能性が高くなります。

黄色いハンカチは 災害時に、ご近所さんに「うちの家族は大丈夫！」と知らせる目印「黄色いハンカチ」を準備しよう

- ・大きく目立つ黄色い布ならなんでもOK！
- ・「黄色いハンカチ」は、ハンカチでなくてもかまいません。
タオルやTシャツなど、家にあるものでOK！
大きく目立つ黄色い布を用意してください。
- ・今回出部地区自治会加入全世帯に1枚(45cm×60cm)配布します。

「黄色いハンカチ」を掲げよう

玄関への掲げ方

特にルールはありません。

自宅の玄関先の形状に合わせて、門扉に掛けたり、郵便受けにはさんだりして、外から見てわかりやすい場所に掲げてください。



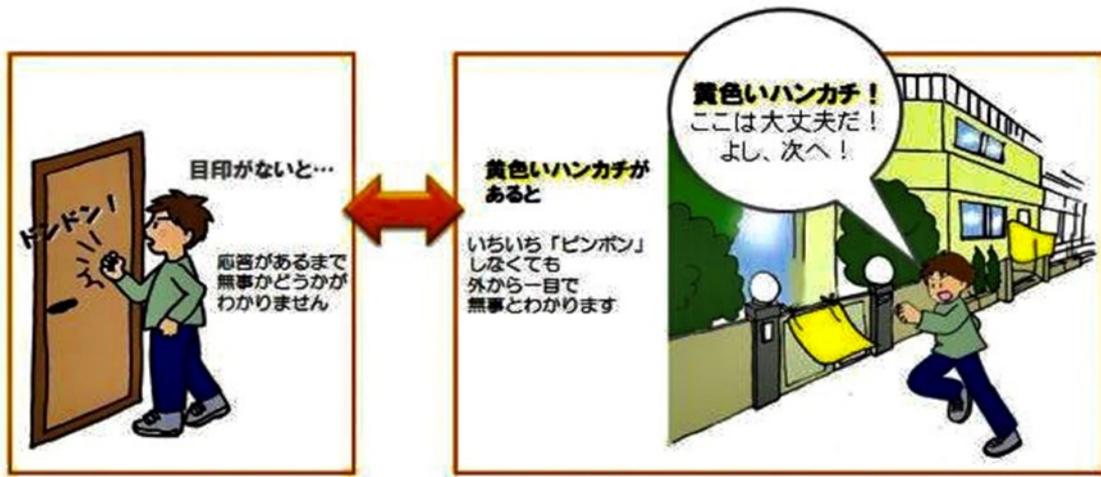
必要に応じて、ひもを縫い付けたり、棒を通せるようにしておくなど、加工をしてください。

黄色いハンカチが安否確認をスピードアップ！

黄色いハンカチの役割は、自治会などでおこなう安否確認をスピードアップすることです。

黄色いハンカチがあると、いちいちインターホンを押したり、ドアを叩いたりしなくても、外から一目で無事とわかり、すぐに次のところに安否確認に走れます。

もしも目印が何もなかったら、中から応答があるまで無事かどうかはわかりません。また、応答がない場合、一時的に留守にしているだけなのか、救助が必要な状態で倒れているのか判断できません。



自治会などでの安否確認や、高齢者・障害者などのための一斉安否確認など、すべての安否確認活動が終わるまで、黄色いハンカチはそのまま玄関先に掲げておいてください。災害規模によって、すべての安否確認にどれくらい時間がかかるかわかりませんので、3日間程度はそのまま掲げておきましょう。

暴風、水害、土砂災害 の場合

- ・ 家族全員事前避難時には黄色いハンカチを掲げ隣組に一声かける。
- メリット 地域に避難済が分かるので、避難の呼びかけ対象から外せる。

注意 「どこに避難すると分かる張り紙」を、家族だけが分かる所に貼る。誰でもが見れる所に貼るのは、盗難等のおそれあり。

問合せ先 所属連合会・防災会まで

引用：箕面市役所HPより



いづえ地区まちおこし協議会は10月31日、音楽イベント「いづえ野外フェスタ」を井原リフレッシュ公園で開いた。地元の人たちや公園を利用する家族連れなど約100人が、山間の広場で希望のメロディーに聞き入った。



リフレッシュ公園 野外フェスタ盛況

フェスタには4グループが出演した。トップはフォークデュオ「P & P」。拓郎の「落陽」など懐かしい青春の歌を奏でた。崎谷由佳利さんのトランペットと安倍千晶さんのピアノのデュオ「P I T O」はトトロや鬼滅の刃の曲を鳴り響かせ、子どもたちを喜ばせた。



ハワイアンUSBのバンド演奏にはフラが彩りを添え、広場はトロピカルムードに包まれた。フィナーレを飾ったのは出部地区の元地域おこし協力隊員だったショージ三宅と仲間たち。サザンの曲などを熱唱、伸びやかな歌声がこだました。



地域に活気とにぎわいを創出し、音楽を通して住民に元気になってもらうために企画した。公園のステージを含む半径16mの円周にロープを張り会場を設定。市の指導によりコロナ感染防止のため、観客は市内の人に限り、会場入り口で検温と手指の消毒、連絡先を記入した。



希望の旋律響く

震災を想定 避難所設営

出部小体育館

防災会役員ら訓練



感染症対策にも力 ベッドやテント組み立て

出部地区防災会は8月7日、市指定避難所となっている出部小学校で避難所開設・運営訓練をした。大規模な震災等が発生した際に、被災者を避難所に受け入れるための具体的な手順を習得する目的。検温・消毒を徹底するなど新型コロナウイルス感染防止対策も取り入れた。



防災会会長が「避難所運営について公助と自助・共助のすみわけを見極める必要もある。災害時、最初の安全安心の受け皿となる避難所開設・運営に冷静に当たれるよう、訓練に取り組もう」とあいさつした。

自治連合会や社協、消防分団の役員たち約30人は分厚い避難所運営マニュアルを手に、実践的な訓練に挑んだ。

市職員の指導で受付所、問診票記載台などを設置。参加者が避難者になり、検温、消毒、問診票を記入し、提出した。間仕切りテント、段ボールベッド、簡易トイレの組み立てなどを学んだ。

「避難所運営のイロハを把握できた」と参加者。コロナ感染予防のために間仕切りテントや簡易ベッドの必要性も痛感していた。

つなぐ会だより

出部地区の敬老会は、コロナ禍のため2年続いて中止になりました。出部つなぐ会(旧女性会)と出部地区社会福祉協議会は今年も、感謝の思い込めて長寿を祝う記念品を、対象者1047人に贈りました。

つなぐ会メンバーたちが心を込めて健康祈願の御守り、つなぐ会考案のサコッシュ、ゼリー、即席味噌汁などを袋詰めして、届けました。

感謝と長寿を祝う



敬老記念品プレゼント



敬老会対象年齢引き上げのお知らせ

令和3年度から、敬老会の事業形態が変わり、対象年齢が段階的に5年間で1歳ずつ引き上げられることになりました。本年度は76歳以上(昭和21年4月1日以前に生まれた方)1047人が対象でした。

来年度以降の敬老会対象の方は下記の通りです。

令和4年度：77歳以上

令和5年度：78歳以上

令和6年度：79歳以上

令和7年度以降：80歳以上





すわ!! 花火火災 非常呼集訓練

出部分団は7月24日、井原分団、県主分団、大江分団との合同非常呼集訓練を井原町の小田川河川敷で行いました。

4分団合同 小田川河川敷 連携スムーズ

花火大会での火災を想定し、川の2カ所を水源として別々のラインで河原の花火打上げ場所、周辺の山林へそれぞれ放水を行いました。非常事態宣言や蔓延防止重点措置期間を避け、手指消毒やマスク着用等のコロナ対策を充分に実施した状態での訓練となりました。

日頃の訓練の成果を十分に発揮し、各分団との連携もスムーズに行うことができ、

コロナ禍での感染対策をした上での有事の際の動きの確認等、とても有意義な合同非常呼集訓練となりました。これからも各分団との連携、団員の消防技術の向上を目指し、引き続き訓練を行ってまいります。

また、地域住民皆様の生命、財産をしっかりと守る為、消防活動や啓発活動を行い、安全で住みよい地域を作れるように、団員一丸となり努めてまいります。



ふるさと出部発見フォトコンテスト春夏編 一般部門

ふるさと出部発見フォトコンテスト（出部公民館、出部地区社会福祉協議会主催）の春夏編には、地区内外の41人から80点の応募があった。中国新聞備後本社編集部長の大野達寛さん、笹井写真館の笹井利倫さんと主催者代表たちが審査し、入賞作品が決まった。

最優秀賞

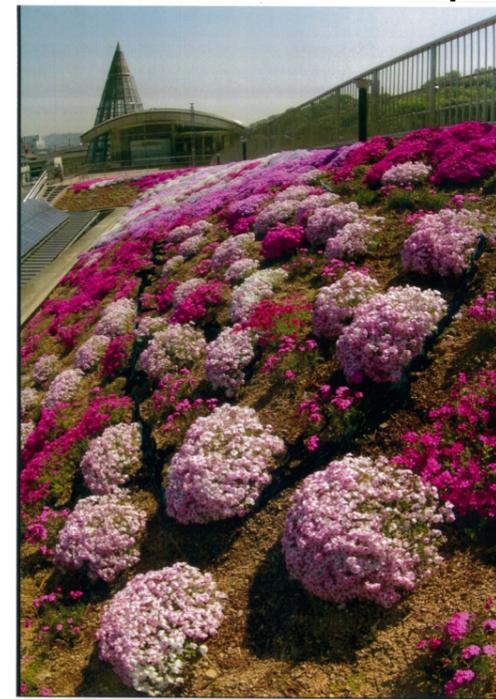
歓喜のキャップ
＝八杉真矢さん



優秀賞



夜空焦がす大輪
＝古田直也さん

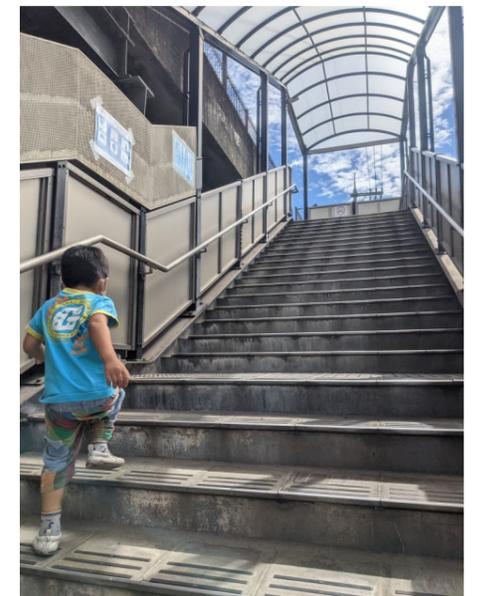


芝桜ガーデン
＝妹尾眞二さん

審査員特別賞



ライトアップ！竹あかりの夜
＝藤代久子さん



青空列車へ駆け上がれ！
＝曾根正典さん

入選



笑顔満開
＝石井理恵子さん



井原鉄道線路
＝今本治義さん



お日さまを浴びたお堂…バックに白い月
＝三宅敏恵さん

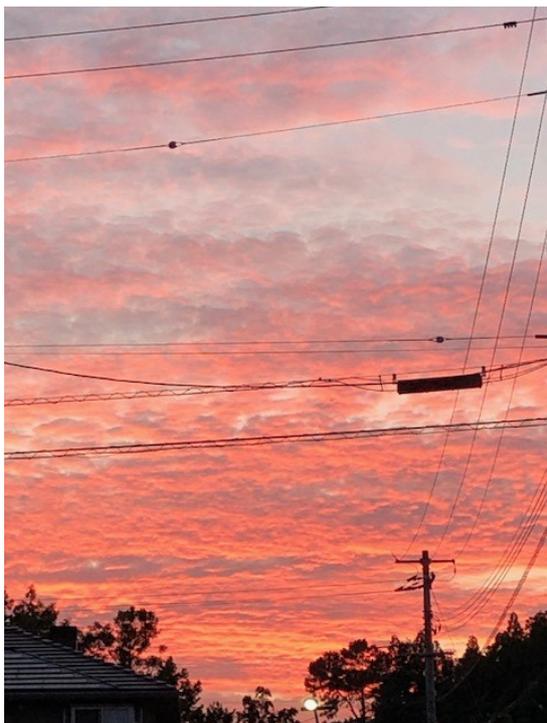


若き匠の夏
＝平川玲子さん



雨のち、お参り
＝金尾雅広さん

最優秀賞



夕焼けこやけ 川平松優海さん

優秀賞



でんちゅうくん
川渡辺由依さん



空飛ぶ列車
川松本ありささん



出発進行
川小林佑さん



タワー
川渡辺優太さん

写真の題材多い出部

中国新聞備後本社編集部長 大野達寛

講評

コロナ禍の中で、私たちのふるさと出部地区の宝物を再発見してほしい。そんな思いを込めて始まった今回のフォトコンテスト。子どもから大人まで多くの力作が集まりました。応募作を一覧して感じたのは、実に絵になる題材が多いなあということ。

最優秀作品は「鯉の川杯ソフト 歓喜のキャップ」。チームの勝利を喜び、青空に向けて一斉に帽子を放り投げた一瞬を見事に切り取っています。似た題材はほかにもありましたが、バックに真っ青な空を持っ

てきて、帽子を浮かび上がらせ、子どもたちの喜びをしっかりと捉えたセンスが光っていました。

サプライズ花火や竹あかりのライトアップイベントは、コロナ禍にささくれた心を癒やしてくれました。夏の素晴らしい思い出でした。井原線や井原駅を絡めた作品も目立ちました。井原線が地域にしっかりと根を下ろしているのを実感しました。旧山陽道の面影を感じさせる風景も魅力的でした。

少し物足りなく思ったのが、人物をテーマにした写真が少なかったこと。秋冬編では、人々の生き生きとした表情をすくい取った写真をもっと見てみたいと思いました。楽しみにしています。

見守り隊 交通安全表彰

児童の事故 防止に尽力

出部地区子ども見守り隊は9月、井原市から交通安全表彰を受けた。

見守り隊は2013年4月に発足。登下校の子どもたちが交通事故などにあわないように、通学路で見守り活動を続けている。

2015年3月には青色防犯パトロール隊も加わり、安全・安心の地域づくりのために、青い回転灯を点灯させて巡回している。



土井さん防犯功労表彰

出部地区青少年を育てる会の土井義宏さんが10月、井原警察署管内の防犯功労者として表彰された。

土井さんは2015年から6年間、育



てる会会員として児童の通学路に立ち、登下校の見守り活動を続けている。

井原・矢掛防犯功労者（団体）表彰式が10月7日、井原警察署で開かれ、表彰状と盾を受け取った。

友愛訪問
メロンやブドウ届ける

今年も果物プレゼント



出部地区社会福祉協議会は本年度も友愛訪問を実施しました。8月9日、在宅で77才以上の一人暮らしの高齢者と虚弱・寝たきりの144人を訪れ、手紙を添えてメロンを贈りました。

9月2日には井原特産のブドウと手紙を添えて、在宅で90才以上の92人を訪れました。「いつまでも元気で」と声をかけると、「ありがとうございます」と感謝されました。

おめでとう
100歳

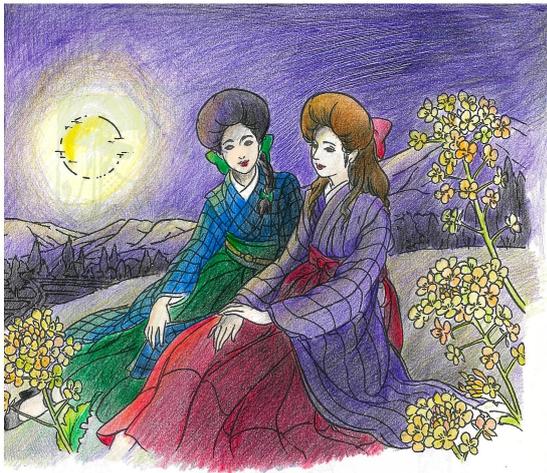
小坂 正巳さん



1921年11月2日生
=下出部町

歌ぬりえ・あいうえお作文に取り組む

最優秀賞



サロン名 川附ふれあいの会
なまえ 藤井明子

薩月夜
菜の花畠に 入り日薄れ
見わたす山の端 かすみぶかし
春風そよぶく 空を見れば
夕月かかりて におい淡し
里わの火影も 森の色も
田中の小路を たどる人も
蛙のなくねも かねの音も
さながらかすめる
薩月夜

サロン、絆絶やさず

コロナ禍により活動を自粛している「いきいきサロン部」は、メンバーの結びつきを弱めないため、ぬり絵や作文を活用している。同じテーマに取り組むことによって、つながりや絆を感じてもらっている。

赤ばね賞

あいうえお作文

サロン名 大橋三代交流サロン

【テーマ】

氏名 赤木千里

～ふれあい ささえあい たすけあい～

お題 「ころなかに」(コロナ補に)

- ① コロナウイルス 世界の平和を乱す時
- ② ツクダウンド ワンパンパンチ マスク着用 開いて進め
- ③ かよく 助けあって 助け合い 互に愛を示し合おう
- ④ ならす 集時 信じよう 平和の日々
- ⑤ っこり 笑顔は心のワクケン

市社協コンテスト 藤井さん最優秀賞

10月22日の井原市社会福祉協議会の「ふれあい・いきいきサロンリーダー研修会」で歌ぬりえと、あいうえお作文の表彰があり、ぬりえの部で川附ふれあいの会の藤井明子さんが最優秀賞を受賞した。

出部中部サロン仲よし会の井上静枝さんと七日市ふれあい交流会の三宅周世さん、出部福寿サロンの藤沢奈美子さんの3人がMYサロン賞。作文の部で大橋三代交流サロンの赤木千里さんが赤ばね賞に選ばれた。

MYサロン賞

サロン名 七日市ふれあい交流会
なまえ 三宅周世



薩月夜
菜の花畠に 入り日薄れ
見わたす山の端 かすみぶかし
春風そよぶく 空を見れば
夕月かかりて におい淡し
里わの火影も 森の色も
田中の小路を たどる人も
蛙のなくねも かねの音も
さながらかすめる
薩月夜



サロン名 出部中部仲よし会
なまえ 井上静枝

われは海の子白波の
さわぐいそへの松原に
煙たなびくとまやこそ
我がなつかしき住家なれ
生れてしおに浴して
浪を子守の歌と聞き
千里寄せせる海の気を
吸いてわらべとなりけり
高く鼻つくいその香に
不断の花のかおりあり
なぎさの松に吹く風を
いみじき茶と我は聞く



サロン名 出部福寿サロン
なまえ 藤沢奈美子

茶摘み
夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
「あれに見えるは
茶摘みじゃないか
あかねだすきに言の笠」
ひよりの
日和つぎの今日此頃を
心のたかに摘みつつ歌う
「摘めよ摘め摘め
摘まねばならぬ
摘まにゃ日本の茶にならぬ」



和気あいあい

コロナ禍のため、長い間中止になっていた仲よし会を10月に1年7カ月ぶりに再開しました。例年、会場は杉ノ木公民館ですが、感染拡大防止のため広い出部公民館に変更。ただ遠くて行かれないという方もいて、参加者は会員30名のうち14名にとどまりました。

平川玲子さんを講師にお迎えし「筆文字講習」に取り組みました。丸みのある優しい曲線を軸に、筆ペンの強弱を使って作られるかわいい文字を、教えていただきました。

最初は難しくてなかなか思うように筆運びができませんでしたが、何度も書いてい

仲よし会再開



筆文字講習

るうちにゆるい優しい文字が書けるようになりました。

最後は上質な紙に好きな言葉を書き、台紙に貼って仕上げました。講師の楽しい指導のもと、満足のいく作品が出来上がりました。

その後は脳トレをし、最後に四季の歌を歌って終わりました。久しぶりの活動で、皆和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。まだまだ油断はできませんが、感染対策をきちんとしながら、今後の活動も積極的に取り組んでいきたいと思えます。
(福祉部部長 鳥越邦子)

襖や障子を張り替え



出部中部杉ノ木公民館は2020年度末、襖、障子、網戸の張り替えをしました。2019年度には、部屋の電灯をLEDに変えています。きれいで明るい公民館になりました。しっかり、ご活用ください。

杉ノ木公民館が明るくなった！ 部屋の電灯をLED化



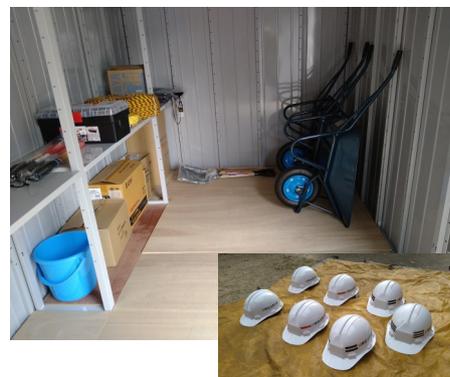
川附自主防災会が発足

横田公園に倉庫を設置

川附自治連合会は10月、会員の防災意識向上と減災目的に自主防災会を立ち上げた。

同時に井原市の補助金を利用して、西部地区4カ所目の防災倉庫を横田公園に設置した。今後、市補助金により備品の補充、災害時の必需品を備蓄していく。

災害時の安全とリーダーが目立つように防災ヘルメットを単位自治会長たちに付与した。



少年団だより

西部少年団は10月24日、各戸を回り資源ごみを回収した。団員・保護者たち132人が参加。新聞紙、段ボール、空き缶、ビン、古着など合わせて軽トラック37台分の資源ごみが集まった。資源ゴミは回収業者に引き渡し、少年団の活動資金にあてる。



奮闘 資源ごみ回収 西部力合わせ軽トラ37台分



参加者はマスクを着け、暑い中、疲れた顔を出さず黙々と雑誌などを運んだ。子どもたちは「自分より大きな段ボールを運ぶ時は重かったけど、一生懸命頑張った」。保護者は「環境保護やリサイクルの勉強にもなったに違いない」と汗を拭っていた。

出部地区の資源ごみ回収は、七日市少年団が11月28日に実施、中部少年団は中止した。

駐車場を増設 新たに18台分

出部公民館



出部公民館の駐車場増設工事が9月末までに終わり、新たに18台が駐車できるようになった。

増設された駐車場は公民館西側の約530㎡。当初の設計では、駐車場と公民館の接続部分は階段だった。公民館を利用する高齢者の方たちに配慮し、スロープに変更された。総工費2840万円。

2015年建て替えられた出部公民館には26

台分の駐車場しかなかった。人口7000人を超える市内一の地域拠点の駐車場としては狭く、地元民は各種総会や会議を開く際、不便を感じていた。

特に毎週営業する「いずえカフェ」には100～200人の利用者が訪れるため、駐車場増設を求める声が高まった。

2018年に地域の組織団体の代表者の署名を添えて市に要望していた。



31人、真夏の熱闘譜

出部公民館杯夏季将棋大会

コロナ禍のため分離開催する予定だった出部公民館主催の夏季囲碁・将棋大会（中国新聞備後本社後援）は、将棋の部が8月8日、出部公民館で開かれた。9月5日に予定していた囲碁の部は緊急事態宣言により公民館が閉館となったため中止した。

将棋の部には、市内から子どもから高齢者までの31人が参加。盤上で熱戦を繰り広げた。

成績は次の通り。 （敬称略）

A級①石井 孝明②山本 五朗③松田 孝行

B級①妹尾 義勝②川合 宏治③萩野 裕幸

C級①松田 直樹②渡辺 純誠③谷本 寛樹

出部公民館インスタ始動 地域の情報も発信

出部公民館は6月から、Instagram（インスタグラム）を始めました。

事業やイベントなど公民館だけでなく、地域の情報をこまめに発信します。右記のQRコードを読み込んで出部公民館インスタ（izuekm）をフォローしてください。

「いいね」もよろしくお願いします。

インスタから本年度開催している「ふるさと出部発見フォトコンテスト」にも簡単に応募できます。



出部地区新年互礼会と文化祭は中止

コロナ感染防止の観点から、出部地区新年互礼会と文化祭は中止にします。

出部地区文化祭に代わる発表の場

出部公民館は、中止となった出部地区文化祭に代わる発表の場を設けます。

2月、個別に開催

公民館で個別の作品展示会や芸能発表会を、「いずえカルチャー月間～きさらぎ」として、2022年2月に順次開催します。希望するサークルなど団体・個人の方は、公民館まで申し出てください。

申込書は出部公民館にあります。部屋の確保や日程調整などがありますので、12月15日までをお願いします。

問合せ先：出部公民館 0866-62-3960

ご寄付ありがとうございます

地域のためにと満中陰志のご寄付をいただきま

した。謹んでお礼申し上げます。（敬称略）

《中部自治連合会》

安井 清人（亡父）

《下出部自治連合会》

山成 益之（亡父）

《出部地区社協》

藤井 啓二（亡妻）

いずえ地区まちおこし協議会のホームページ

<http://www.ibara.ne.jp/~izue-km/machi/>

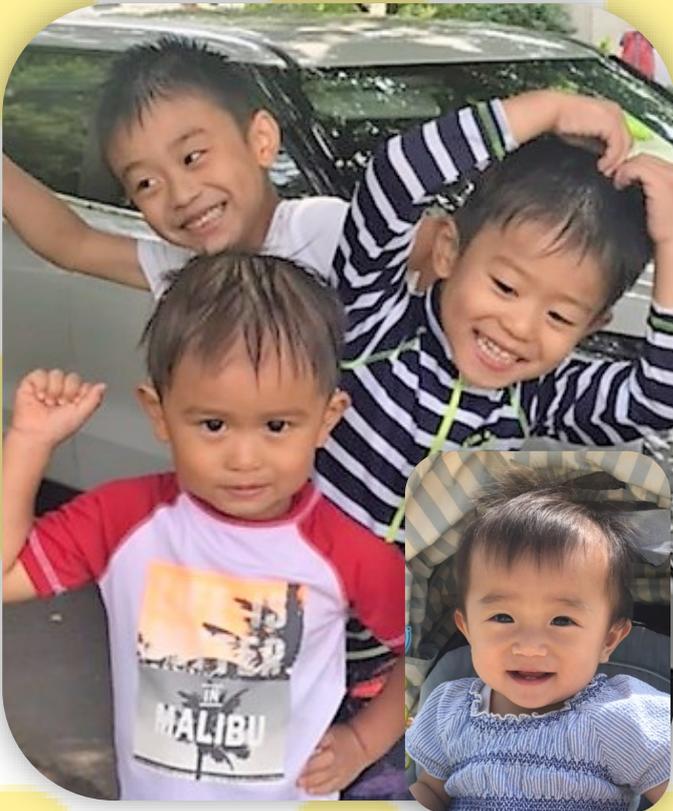
いずえ地区まちおこし

検索

飛び出せ いずえっ子

男の子 (2014年12月14日) 男の子 (2016年10月13日)

渡辺
わたなべ
聡一郎ちゃん
そういちろう



渡辺
こうすけ
紘介ちゃん
こうすけ

渡辺
じんぺい
仁平ちゃん
じんぺい

渡辺
ほのか
穂乃花ちゃん
ほのか

男の子 (2018年8月15日) 女の子 (2020年10月5日)
= 下出部町 =

森元
もりもと
心葉ちゃん
このは



女の子 (2015年7月27日)
= 下出部町

鳥越
とりこえ
杏奈ちゃん
あんな



女の子 (2020年8月11日)
= 上出部町

志奥
しおく
奏介ちゃん
そうすけ



志奥
けいすけ
景介ちゃん
けいすけ

男の子 (2016年3月14日) 男の子 (2018年4月14日)
= 上出部町 =

谷中
おうしろ
旺志郎ちゃん
おうしろ



男の子 (2021年5月16日)
= 下出部町

「ふるさと出部」では元気なお子さんをご紹介します。掲載するのは①名前(ふりがな付き)②生年月日③性別④町名⑤顔写真。保護者の連絡先を添えて出部公民館(〒715-0021、井原市上出部町1219-2)まで郵送するか持参してください。

メール(izue-km@ibara.ne.jp)でも受け付けます。

締切2022年1月31日(必着)

作品募集

ふるさと出部発見 秋冬編 フォトコンテスト

一般部門
豪華副賞
キッズ部門



メール応募

【送付先】〒715-0021 井原市上出部町1219-2

出部公民館「ふるさと出部発見フォトコンテスト」係

mail:izue-km@ibara.ne.jp

応募の注意

※2021年9月から2022年1月までに撮影した出部で撮影した写真、出部をテーマにした作品。地区外からの応募OK
※デジタルデータ(jpeg、メールで応募可)かプリントアウトした作品(2L判~A3判)
※氏名・連絡先、タイトル、撮影日・場所、小学生は学年を明記。1人3点まで(組み写真不可)
※スマホ・タブレットの写真も可。他コンテストとの二重応募不可

※インスタからの応募も受け付けます。出部公民館のInstagram「izuekm」をフォローのうえ、ハッシュタグ「#ふるさと出部発見」を付けて、撮影地・撮影日・応募部門などを記載し、写真を投稿してください
※作品の著作権は応募者に帰属しますが、応募時点で、主催者関連の広報・ポスター・パンフレット・Webページ等のほか、主催者が作成する印刷物等に、無償で使用するについて同意したものとみなします。作品は返却しません

主催：出部公民館、出部地区社会福祉協議会

後援：いずえ地区まちおこし協議会、出部つなぐ会、消防団出部分団

編集後記

ふるさと出部発見フォトコンテスト春夏編の入賞作品が決まった。応募の出足は鈍かった。魅力がない地域なのだろうかーよぎる不安は杞憂だった。締め切り間近になって写真が次々に届く。出部のよさを切り撮った作品ばかり。ふるさとに誇りを持たし、事業の先行きに手ごたえを感じた。秋冬編を募集中。季節の移ろい、史跡、人物…シャッターを切って出部愛をはぐくんでほしい。